

平成30年度
第2回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化处理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：平成30年10月12日（金） 10:00～12:10

場所：一般財団法人 日本環境衛生センター 東京事務所

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長	大迫 政浩
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 基盤技術・物質管理研究室 室長	倉持 秀敏
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	高岡 昌輝
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
東北大学大学院 環境科学研究科 教授	吉岡 敏明
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	米田 稔

オブザーバー

福島県生活環境部一般廃棄物課 主幹	濱津 ひろみ
東京二十三区清掃一部事務組合 杉並清掃工場	箆島 保

議事要旨

I 本日の議事

1. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その1業務について
2. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その2業務について

II 検討内容

1. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その1業務について
冒頭、新日鉄・クボタ・大林・TPT 特定共同企業体（以降、新日鉄・クボタ・大林・TPT JV
と記載）より、業務内容について説明があった。

（1）灰処理対象物の前処理及び均質化について

委員より、ピット内における灰処理対象物の均質化のための攪拌は、どのように行うのか。また、灰処理対象物の成分等は仮設焼却施設によって異なることがあると思うが、どのように対処するのかとの質問があった。新日鉄・クボタ・大林・TPT JV より、灰処理対象物の均質化のための攪拌は、ホップへ投入する時間以外、クレーンを用いて常時攪拌す

る。また、灰処理対象物の成分等が異なる場合は、ピット内の保管場所を変えて管理し、薬剤添加量を調整することで対応するとの回答があった。

(2) 生成物の分析について

委員より、生成物の分析は1日1回行うことになっているが、どのタイミングで行うのかとの質問があった。新日鉄・クボタ・大林・TPT JV より、朝にサンプリングを行い、夕方に分析結果が出るため、その結果を翌日の運転に反映させる。このことを繰り返し行うとの回答があった。

(3) 環境への影響や作業員の被ばく防止への対応について

委員より、処理が適正に行われることと同時に、環境への影響や作業員の被ばく防止についての対応も大切であるとの助言があった。

2. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その2業務について

冒頭、JFE・前田特定業務共同企業体（JFE・前田 JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) フレキシブルコンテナ内に粗大物や異物が含まれた場合について

委員より、仮設焼却施設に搬入されたフレキシブルコンテナ内に粗大物や異物が含まれていた際はどのように対処するのかとの質問があった。JFE・前田 JV より、破碎する必要があるものはそのまま焼却し、破碎する必要があるものは破碎機に投入して破碎してから焼却する予定であるとの回答があった。

(2) フレキシブルコンテナの事前調査について

委員より、搬入予定のフレキシブルコンテナの事前調査における表面線量率が低かったとのことだが、今回は周囲の空間線量率が低いため支障ないが、周囲の空間線量率が高い場合や、フレキシブルコンテナごとの表面線量率の差が大きい場合は周囲からの放射線を遮蔽して測定する等の工夫をすべきとの助言があった。

(3) 電源喪失時の安全対策について

委員より、地震等による仮設灰処理施設の電源喪失時の安全対策について、どのように計画しているのかとの質問があった。JFE・前田 JV より、排ガス処理設備は仮設焼却施設と同様の安全対策を講じており、溶融炉については燃料で稼働するエンジンポンプによって冷却水の供給を確保して安全停止するように設計しているとの回答があった。

以上